

国語科学習指導案

日 時 平成24年10月18日(木) 5校時
学 級 1年A組(男子14名 女子16名 計30名)
場 所 1年A組教室
授業者 教 諭 中村 雅子

1 単元・教材名 3 つながりを読む シカの「落穂拾い」—フィールドノートの記録から

2 教材について

(1) 教材観

本教材は、宮城県金華山に棲むシカが、樹上に棲むサルが落とす花や葉を採食していることを、観察や調査を通して考察した記録文である。観察→仮説設定→検証→考察という、研究記録文としては、典型的な展開になっている。事実(観察・検証)と考え(仮説設定・考察)を読み分け、その関係を捉えることで、筆者の導く結論(要旨)に到達させることができる。また、「小見出し」や「箇条書き」、「具体的数値の提示」など、記録文の特徴が随所に表れた文章である。

その特徴の一つでもあるのが、「図表の活用」である。図表は、筆者が研究の過程を説明し、自らの仮説と検証を述べる際に、読者にとってよりわかりやすいように、また読者がより納得してくれるように意識的に位置づけたものである。さらに、本教材は、ただ数値を挙げるだけでなく、図表にして考察することにより、新たな発見へとつながっていく筋道が明確な文章である。

(2) 指導観

1学年生徒のNRTの結果は以下のとおりである。

中領域集計

目的や場に応じて話すこと	90.3	87.0	104
意図を考えながら聞くこと	85.5	85.5	100
適切に話し合うこと	93.2	84.8	110
書く事柄や組み立てを考え書く	67.0	63.0	106
表現の効果を確かめ、正しく書く	58.6	49.7	118
説明的な文章を読むこと	64.4	56.6	114
文学的な文章を読むこと	53.9	42.4	127
文中での語句の関係や用法の区別	64.8	58.0	112
漢字の読み・書き、熟語の構成	63.8	55.9	114

全領域で全国平均を上回っているが、中領域で見ると、「読むこと」では「文学的文章」よりも「説明的文章」の数値が低く、また、「書くこと」では「組み立てを考え書く」ことに今後一層の伸びが期待できそうである。全体として、平均は高いが、5段階の2・1の生徒が9人で、教師や生徒相互の支援が必要である。

また、1学年生徒は、総合的な学習で「東日本大震災」について調べ学習に取り組んだが、膨大な資料の中で、自分の調査テーマに適した資料を見つけられない生徒や、資料からそのままの数値や事実は読み取れるが、そこから考察することのできない生徒がかなり見受けられた。

そこで、本教材と11月に学習する「図表を用いた記録文を書く」学習を複合的に取り扱い、本教材で学んだ記録文の構成や図表の活用法をもとに、自分で「記録文を書く」ことをゴールに学習活動を進めていきたいと考えた。科学的研究記録文である本教材の学習により、事実と意見を読み分け、記録文の構成や展開の仕方を学ばせたい。「図表の活用」については、まずは、図表と本文との対応関係を適切につかませたい。次に何のためにその図表を提示したかという筆者のねらいをとらえさせ、図表からわかる事実と考察の整合性に気づかせたい。11月に取り組む「図表を用いた記録文を書く」学習につなげるため、「記録文を読む」学習において、常に最終目標を意識させ、主体的な学びとなるよう導いていきたい。

3 教材の目標と言語活動

(1) 目標

- ① 文章と図表との関連を捉え、記録文の構成に興味をもって読むことができる。(関)
- ② 図表と併せて文章を読み、論の展開を理解することができる。(読(1)イ)
- ③ 図表が果たしている役割を考え、その効果について自分の考えをもつことができる。(読(1)エ)
- ④ 読んで自分の考えを引き出す際に、箇条書きや小見出し、指示語・接続語など、より適切な語句を選ぶことができる。(伝国(1)イ(ウ))

(2) 中核となる言語活動

- ① 図表などを用いた記録文を書くこと。

*本教材と11月の「書く 調べたことを報告しよう」を、複合的に扱い、上記を共通の言語活動とする。

4 教材の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
・文章と図表との関連を捉え、記録文の構成に興味をもって読もうとしている。	・図表と併せて文章を読み、論の展開を理解している。 ・図表が果たしている役割を考え、その効果について自分の考えをもっている。	・読んで自分の考えを表す際に、箇条書きや小見出し、指示語・接続語など、より適切な語句を選んでいる。

5 教材の指導計画（5時間）

時	学習内容・学習活動
1	・「シカの『落穂拾い』」の全文を通読し、興味や関心をもったところを発表し、学習の見通しをもつ。
2 3	・小見出しごとに内容をまとめ、筆者の調査の概要（調査のきっかけ→観察結果→仮説→検証→考察の流れ）をつかむ。
4	・図表と文章を対応させながら読み、図表の役割を考える。 ・「記録」の文章の特徴についてまとめる。
5	・図表が果たしている役割を考えて文章を書き直し、図表を用いた説明のポイントを考え、まとめる。(本時)

6 本時について

(1) 指導の目標

- ・図表が果たしている役割を考えて文章を書き直し、図表を用いた説明のポイントを考え、まとめることができる。

(2) 本時の評価規準

国語への関心・意欲・態度	図表が果たしている役割を考えて、適切に文章を書き直そうとしている。
読む能力	図表が果たしている役割を考えて文章を書き直し、図表を用いた説明のポイントを考え、まとめている。

(3) 本時の構想

本時では、「シカの『落穂拾い』」で学んだ、「図表と文章の関連とその役割」を生かして、「図表」に関わる新たな記録文について、不適切な部分を書き直させたい。図表からはいろいろな情報が読み取れるが、その中で重要なのは、考察につながる情報である。読み取った情報と考察した内容が、論理的に整うようにしていきたい。「シカの『落穂拾い』」では、図表から単に数値を提示するだけでなく、読み取った情報をもとに「落穂拾いの盛んな時期」や「落穂拾いの理由」の考察につなげている。図表やデータから読み取った内容が、考察につながる例として参考にさせたい。

また、意見発表に関しては、小集団学習により、全員が根拠を示して自分の意見を発表した上で、全体討議へともっていききたい。(小集団学習を用いる視点：個の考えの明確化) 終末段階では、指導事項の確認のため、Gアップシートを家庭学習課題として活用したい。

本時における「表現力」とは、図表に表された事実から、論理的につながる考察ができる力で

あり、それを他の人と伝え合うことで、よりよいものに高めることができる力である。そして読む学習で身につけたことがマニュアルとなって、最終ゴールであり、中核となる言語活動である「図表を用いた記録文を書く」学習に取り組めるようにしていきたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	留意点 (評価)
導入 5分	1 学習計画と前時の確認 ・図表の役割について既習事項をあげる 2 本時の課題把握 <u>図表の役割を考えて適切な文章に書き直そう。</u>	・本文と対応している ・わかりやすい ・考察が深まる	・家庭学習の確認。 ・学習計画の意識化。 ・判断基準の明確化。
展開 40分	3 図表Ⅰを説明する文章として適切なのはAかBか。それはなぜか。 4 図表Ⅱを説明する文章を読み、不適切な部分を書き直す。 (1) 個で書き直す。 (2) 各班に分かれた話し合い。 (3) 全体討議 各班の代表者の発表 (4) 他の班に対する質問・意見の発表・交流 (5) 図表の役割について、自分の考えを書く。 5 図表を用いて説明するポイントをまとめる。 ◎考察との整合性 ・分かりやすさ ・関連を考えて入れる	・既習事項をもとに、根拠を挙げて答える。 ・司会・記録・発表者・質問者の役割分担をする。 ・「シカの『落穂拾い』」で学習した図表の役割や効果に基づき、根拠を明確にして意見をまとめる。 ・本文との対応や正当性、考察とのつながりを根拠として発表する。 ・互いの発表を聞き、自分たちの班との違いを把握する。 ・質問者だけでなく全員で質問・意見を考える。 ・納得して取り入れたい点。 ・さらによくするために気づいたこと。 ・学習シートへ記入する。	・2択で考えてみる。 ㊦根拠を挙げて説明しようとしているか。(関心・意欲・態度) ・根拠を明確にさせる。 ・異なる意見についてメモをとって聞かせる。 ・他の意見から取り入れるところはないか検討させる。 ㊦根拠を挙げて書き直せたか。(読む能力) ㊦図表を用いた説明のポイントについて自分の考えを持てたか。(読む能力) ・あとで記録文を書く際のマニュアルとなるよう、1枚の学習シートにまとめる。
終末 5分	6 自己評価・今後の学習への意識づけ 7 家庭学習課題の提示	・今後の学習の見通しを再確認する ・Gアップシートの類題に取り組む。	・記録文を書く学習で気をつけさせる。 ・教え合い学習で取り組むよう促す。